

佳作

現実にするためのエネルギー

宮城県栗原市立志波姫中学校

2年 佐藤 歩実

私は、中学生になってから必死になって勉強しています。なぜなら、定期考査でも実力テストでも、小テストでも全ての教科のテストで満点を取りたいからです。そして成績も全ての教科で5を取りたいし、取らなければ気が済まないのです。満点や成績の5を取らない自分が許せないのです。私は、自分が取った点数は満点以外は意味がなく、満点を取って当たり前だと思い、自分を奮い立たせています。満点を取っても満足せずにこのままテストの点数を維持し、向上させるために勉強をしています。そして勉強だけは誰にも負けたくない。どんなテストでも1位を取りたい、取らなければ気が済まないし許せないのです。だから私は毎日、暇さえあれば一日中ずっと勉強しています。勉強が毎日のルーティーンになっているのです。

私がなぜ毎日勉強を続けられるのか、頑張れるのか。そのエネルギーは私の将来の夢にあります。私の将来の夢は東京大学に入学して、薬剤師か医師の資格を取り、視力を片目ずつ1.0以上に回復させる薬や、近視を治して視力を片目ずつ1.0以上に回復させる薬を作ることです。さらに視力を回復させる薬や近視を治す薬を作ったことで、ノーベル賞かギネス世界記録を取ります。その賞の授賞式で、アメリカのニューヨークの国際連合の本部で英語でスピーチをします。さらに私は、自分で作った薬で近視が治っていて、両方の目の視力が片目裸眼で1.5以上になっていて、メガネやコンタクトを使わなくても遠くがよく見える目を持っています。このおかげで夜、満天の星空や月を裸眼で見たいのです。それから、もし私が薬剤師の資格を取ったら漢方薬剤師の資格も取り、薬草を育てたり研究をしたりして視力を回復させる薬以外にも、自分で薬をたくさん作りたいと思います。これが私の将来の夢です。そしてこの夢かない現実になることを私は確信しています。

私は、近視で視力が下がっていてメガネをかけなければ遠くのものが見えません。そのうえ勉強したり、読書をしたりして近いものをずっと見続けていることが多いです。だから視力はもっと下がってしまうかもしれません。しかし、現時点では病院に行っても近視を治してくれないし、視力を回復させる方法も教えてくれないので、今は視力を回復させる薬も治療法もないのでしょうか。それならば私の視力が勉強をしたから下がったとしても、今まで勉強したことで夢をかなえて自分で自分の近視を治して両目の視力が1.5以上にするのがで

できれば、今の私の視力が低いことは無駄にならないはずです。

私は小学校6年生の時に近視になりました。そのためそのときからずっとメガネをかけています。しかし、6年生のときの1年間、視力を回復させる方法が書いてある本や目がよくなる本などを何冊も買い、どうにかして視力を1.0以上にしようと頑張りました。ですが結局、視力は今よりは良かったものの1.0以上までは回復しませんでした。父からは「視力を回復させられると言って人の心につけ込んで、お金を請求する悪い宗教団体に入るなよ。」と怒るように言われました。それなら、「私が視力を1.0以上まで回復させたり、近視を治す薬を作ろう!」と思いました。だから、中学校、高校3年、大学は薬学部か医学部に入ると思うから6年間合計12年間は視力のことは忘れて勉強に集中して、東京大学に入学し医師か薬剤師の資格が取れるように頑張ろうと思いました。おそらくこのとき「自分で視力を1.5以上まで回復させよう。」と考えました。これも私のエネルギーです。

私が、このように考えた理由は「なぜ人間は目を大切にしないのだろう。」という疑問からだと思います。例えば人間は食事後、歯を磨きます。歯は子どものときに1回しか生え変わりません。だから私も「食事後はしっかり歯を磨きなさい。」と言われました。さらに、学校でも歯科医の先生がいらっしやって歯の磨き方を教えてくださいました。しかし、視力も現時点では回復しないと言われているのに、なぜ遠くを見たり、目を温めたり、目のマッサージをしないのだろうと思いました。そのうえ「視力が下がったらメガネやコンタクトを使えばいい。」という考えで目のことを全く大切にしていません。人間は目からほとんどの情報を得ています。逆に言えば、それだけ膨大な情報量を得ている目を失えば日常生活を送ることはできません。それにもかかわらずなぜ、目を視力を大切にしないのでしょうか。

私は自分で自分の近視を治し、片目ずつ視力を1.5以上まで回復させて目と視力の大切さを国際連合の本部のスピーチで訴えたいと思います。